



# 市の予算を 徹底チェック

## 平成28年度予算 に関する 大綱質疑

平成28年度予算案全体に対して、疑問や不明点を明らかにするため、市に説明を求めました。その中から、主なものを掲載します。

**本市22%、結城市26%、筑西市52%となっております。**  
市別の利用者数の把握はしていないとのこと。負担割合の見直しに関しては、3市からの市議15人による広域事務組合の定例会で予算案が可決されており、市としても妥当と考えています。

### 高齢者安全対策事業 536万円

**問** 高齢者の運転免許証の返納状況等を教えてほしい。  
**答** 平成25年から現在までの返納者は94名です。返納者にはデマンドタクシー券9000円と返納手数料10000円の計1万円を補助しています。

**農業委員会費用**  
**問** 任命制になって費用はどうなるのか。  
**答** 報酬は、農業委員数が27から18となり約390万円の減となります。新設の推進委員分を含む総報酬額は324万円の増で、費用弁償を含む総旅費についても約34万円の支出増となります。  
しかし、原資に県補助金の700万円増が見込まれるので、全体では、前年度比差し引き約340万円の収入増となります。

### 参議院選挙費用 2333万円

**問** 投票所を20カ所にしたことにより、費用は幾ら減るのか。  
**答** 不確定要素もありますが、前回比384万円の減と見えています。

### 防災無線 859万円

**問** 無線の難聴地域への戸別受信機の経費は、取りつけ代を含んで1台8万円と聞いている。現在何台が貸し出しされ、あと何台貸せるのか。  
また、時報の時間が市内で違っているが、統一すべきではないか。  
**答** 難聴家庭に土砂災害特別警戒区域家庭を加え、1221世帯への貸与を計画していますが、現在の貸与

申請は715世帯にとどまっています。  
時報の統一は今後の検討課題としたいと思います。  
**桜川消防署と大和分署の統合**  
**問** 筑西広域消防費負担金が約3000万円増えたのはなぜか。  
**答** 本市管内への職員配置増によるところが大きな理由です。  
**問** 近年は集中豪雨などによる自然災害も増えている。  
こうした中、岩瀬の桜川消防署は、高速道路の消防対応等もあり手狭な上に、その役割が増している。  
他方、羽田の大和分署は、震災の影響でプレハブでの執務を迫られている。  
こうした状況を踏まえ、市長は、この2署を統合するつもりはないか。  
**答** 筑西広域の方から、両署の統合の意向は聞いており、「今より大和寄りと一緒にしたいので、検討してほしい」とのことでした。先に、別議員から地域消

### 遊湯館負担金 4804万円

**問** 同負担金は、均等割と人口割で3市が負担しているとのことだが、具体的には幾らずつか。また、鬼怒

川の先にある遊湯館は本市から遠く、本市市民の利用数も少ないと思われる。負担割合を見直すべきと考えるがどうか。  
**答** 本市の負担額は約4804万円で、負担割合は

防団統合の提案もあったので、その辺りも含めて、前向きに検討していきたい。

### 伝承館の祭日開館

**問** 以前から祭日開館を要望してきた。新年度から祭日も開館するのは間違いなのか。  
**答** 4月から、年末・年始の休館日以外は、開館する予定です。

伝建協（でんけんきょう）全国伝統的建造物群保存地区協議会の略称。保存地区の歴史の町並を保存するためのさまざまな情報を収集・蓄積し、これらを会員相互で共有するとともに全国に発信。平成29年度に、桜川市で総会が開かれる予定。

### 伝統的建造物群・パンフレットの補充

**問** ひな祭りのときに、伝建地区のパンフレットを伝承館にもらいに行ったところ、ありませんとのことだった。今回提案の予算に、同パンフレットの印刷費を計上しているのか。  
**答** パンフレットの作成費は計上していません。

### 市の長期財政見通し

**問** 今回、3事業で、最終的に120億円になる巨額予算が上程された。  
市長は、少子高齢化等により、歳入が減って義務的経費が増えると「財政の硬直化」が進み、市独自の施策が打てなくなるので、施策を実施するには、「費用対効果」をよく考えて行うとしている。  
今後、高齢化に伴って介護・医療費の負担も変わってくる。合併特例債だけでなく、これらも織り込んだ長期財政見直しを、市は出すべきではないか。  
**答** 医療費等については、国・県補助等の対応がさまざまであり、その都度見て

### 大和駅北地区開発予算 8億7500万円の積算根拠

**問** 大型商業施設を長方地区側に呼び込むため、道路や調整池等を先行整備するとし、昨年6月、その測量・設計費として1億2400万円の補正予算を通過させた。  
今回の8億7500万円は、高森側の病院のための道路・調整池等の整備費であり、先の補正予算の用途とは異なる。  
長方側の調整池は大型商業施設のためのものだったはずで、今回の池は、大型商業施設が来なければつくる必要のない池ではないか。  
そもそも測量や地質調査は終わったのか。また、今回の9億円近い工事予算は、その結果を踏まえて積算したものなのか。  
**答** 病院は喫緊の課題です。また、質問の中に出た商業施設は大型ではありません。民間の企業が商業施設

### 計画に先立つ「費用対効果」分析の有無

**問** 大和駅北開発計画は、今後どれだけお金がかかるか分からない計画である。しかし市長は、財政が厳しい中、費用対効果を考えて施策を打つと何度も述べている。  
そこで、この巨大プロ

ジェクトの開始に先立ち、費用対効果は計算されているのか。また費用対効果分析をどう考えているのか。  
**答** 費用対効果の分析は、土地利用計画をまだ詰め切れておらず、積算できていません。  
しかし、市長のかねてからの答弁のとおり、事業を行う場合には、費用対効果を十分に考慮し、取り組んでいくべきと考えます。  
なお、今回の事業予算は、高森・長方地域の将来を考えたとき、絶対的に必要なものと考えています。  
**答** 費用対効果の分析は、今、費用計画を策定中で、中々難しいです。  
計画としては、大和駅北へのCCRC（継続的なケアを提供する高齢者向けコミュニティ）の事業計画があり、現在、地方創生の加速度交付金をこれに使えるよう、国に要望中です。  
**病院問題**  
**新中核病院の機能**  
**問** 新中核病院は心疾患・脳疾患に対応できる、救急